

製品名: ApoL3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07046**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	APOL3
別名	APOL3; Apolipoprotein L3; Apolipoprotein L-III; ApoL-III; TNF-inducible protein CG12-1; CG12_1
遺伝子 ID	80833.0
SwissProt ID	O95236
免疫原	ApoL3 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 100-180

背景

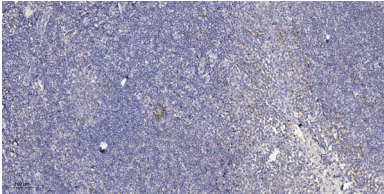
この遺伝子はアポリポタンパク質 L 遺伝子ファミリーのメンバーであり、22 番染色体上に他のファミリーメンバーとともにクラス

ターとして存在します。コードされているタンパク質は細胞質に存在し、コレステロールを含む脂質の移動に影響を与えたり、脂質が細胞小器官に結合したりする可能性があります。さらに、この遺伝子の発現は、正常およびアテローム性動脈硬化症の腸骨動脈と大動脈の内層を覆う内皮細胞において、腫瘍壊死因子 α によってアップレギュレーションされます。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2015年3月]、機能:細胞質内の脂質の移動に影響を与えたり、脂質が細胞小器官に結合したりする可能性があります。誘導:in vitro で、腫瘍壊死因子に反応します。類似性:アポリポタンパク質Lファミリーに属します。組織特異性:広く発現しています。最も高いレベルは前立腺、肺、胎盤にあります。また、腎臓、骨髄、脾臓、胸腺、脊髄、副腎、唾液腺、気管、乳腺でも検出されています。脳、心臓、胎児の肝臓、膵臓、精巣ではレベルが低くなっています。

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、30分)。